

教養学部創立60周年記念号



会報 けやき会

2025

埼玉大学教養学部同窓会だより Vol.23

このたび、埼玉大学教養学部が創立60周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。長い年月の間、多様な分野で活躍する優れた人材を輩出し、社会の発展に多大な貢献をされてきた教養学部の歩みに、深い感銘を受けるとともに、敬意を表します。

埼玉大学は1949年、旧制官立浦和高等学校と二つの師範学校が統合され、新制国立大学として設立されました。当初は文理学部と教育学部の二学部体制でしたが、1965年には三学部体制に改組され、教養学部が独立しました。教養学部は、旧制高等学校の伝統を受け継ぎ、多様な分野の知識を融合したリベラルアーツ教育を担ってきました。

学長として、多くの卒業生と交流する中で、教養学部出身者のユニークな経歴やチャレンジ精神が特に印象に残っています。このような背景には、教養学部が専門性の追求にとどまらず、自らの学びを重視し広い視野を持つ学生を育成してきた取り組みがあると感じます。

今後ますます複雑化する社会の中で、専門分野の深い知識に加え、異なる分野や文化を理解し統合する力が求められており、広い視野を持つ人材の育成は、グローバル

教養学部60周年に寄せて

今年、教養学部は創立60周年を迎えます

国立大学法人埼玉大学

学長 坂井貴文



化が進む社会において優先的なテーマです。その意味で、今後の教養学部にとって、異文化を理解し国際的な課題を解決する能力を育む教育プログラムのさらなる充実が極めて重要な目標となるに違いありません。

一方、文理融合の観点から、教養学部が自然科学分野を積極的に導入することも必要だと考えます。例えば、データサイエンス、環境科学、生命科学などの分野をカリキュラムに組み込むことで、学生が現代社会の複雑な問題を理解し解決する力を今以上に培うことが可能になります。埼玉大学50年史によると、当初、教養学部の教育方針は「人文科学の科目をほぼ網羅するほか、社会学から自然科学にいたるまで広範に及んでいる」とあります。60年が経過し、学部創設時に掲げた理想が真に求められる時代になりました。

教養学部には、新しい社会のあり方を切り拓く人材を輩出する場として、「All in One Campus」という本学の強みを活かした新たな挑戦を進め、その存在感を一層高めていただけることを期待しております。

教養学部、そして埼玉大学のさらなる発展に向けて、今後も共に歩んでまいりたいと思います。

けやき会の諸先輩方におかれましては、日本いや世界のあらゆる場所でご活躍のことと存じます。平素より、教養学部ならびに人文社会科学研究科学際系（以下、人社科）の教育研究活動に深いご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

学部長を拝命してから1年が経ちました。多くの関係者にご迷惑をおかけしつつも、なんとかここまでやってこることができました。

もちろんこれは優秀で協力的な教員また事務職員の尽力のおかげであることは言うまでもないことです。勤勉で真面目な学生も強い後押しになってくれました。

ですが、ここに加えて私が強調したいのは、けやき会の存在です。

5つの専修、さらに11の専攻から成り立つ教養学部は、専攻（かつてのコース）を一つの島とした教育を行っています。そのため、教養学部全体として、つまり学部としてのアイデンティティをもってなにかにに取り組む機会には、そう多くあるわけではありません。専門的な修士論文あるいは博士論文の執筆がプログラムの中心となる人社科ではなおさらです。

このような状況下でありながら、部局長として学部全体のアイデンティティや将来を構想するのは困難です。この点、同窓会は教養学部ないし人文社会科学研究科の学生全体を見渡せる組織であり、かつ、私た



学部長 あいさつ

教養学部長 宮田 伊知郎



ちを俯瞰して眺めることのできる存在です。岡田道程会長企画運営の寄附講義（大好評です！）、就職相談会、ホームカミングデー等での同窓会メンバーのみなさんとの交流のなかで、教養学部の魅力であるとか、あるいは至らない部分に気づかされることは実に多かったです。各界で活躍する同窓会のみなさまこそ、教養学部の「教養」が社会においてどういう意味をもつか、あるいはどう役立つかなどについてのロールモデルに他なりません。会員のみなさまにはこれからもご指導を頂きたいと願っている次第です。

さて、2025年度は節目となる一年です。教養学部は60周年、すなわち還暦を迎えます。教養学部の培ってきた伝統をいまいちど確かめるとともに、今後の行方を構想するそうした一年になればと思っています。2026年度には、心理学専攻とジェンダー研究専攻から構成される共生構想専修が新たに設置され、入学定員も160名から200名に増えます。先輩方の力を借りつつ、新たな一歩を踏み出す準備ができれば幸甚に存じます。

本年度も変わらぬご支援、ご協力を何卒よろしくお願い致します。



目次

坂井学長から 学部長あいさつ 会長あいさつ	1
寄附講義レポート 講師から 中川和広氏 受講生から 石田萌瑛さん 難波晃生さん	4
けやき賞 大村瑛理香さん 青木雅史さん	8
留学生の声 ナンサイアウンさん	9
追悼川田順三先生 さきたま塾	10
就活支援活動 ホームカミングデー	11
同窓生の活躍紹介 井上真理氏 時田心太郎氏 柏原聖士氏	13
同窓生を訪ねて 川澄寛国氏	14
60周年にちなんで 酒井憲太郎氏	16
24年度総会報告 25年度総会のお知らせ	19

2025年は、埼玉大学教養学部創立からちょうど60周年を迎えます。60年といえば、人間で言えばちょうど「還暦」です。今年は、同窓会（けやき会）主催で、ホテルを貸し切つてというような派手なことはできませんが、ささやかな企画を立て、卒業生の皆さんとともに祝いしたいと思います。

その目玉になるのが、6月28日（土）総会の日に行われる記念講演で、埼玉大学名誉教授の永田雅啓先生にお願いしたところ、快諾いただきました。タイトルは「転換点に立つ世界―国際経済学から見たトランプ政策：19世紀に逆戻り？―」で、まさに時宜にかなったご講演かと思えます。

永田先生の講義を受けた卒業生はもちろん、今最もホットな話題「トランプ政権」を国際経済学の立場から読み解くという興味深いテーマですので、卒業生の1期生から現役学生まで幅広く、特に初めての会員の皆さまに聴きに來ていただきたいと思います。

また、当日は記念講演の後、30分程度の短い「総会」があり、その後第2生協のレストランで「懇親会」も企画しています。そこで「永田先生を囲む会」ができれば理想的です。

もう一つ、学年別に集まっていたくアイデアも出ています。卒業年次と入学年次の2案が出されましたが、取りあえず今年



けやき会会長 あいさつ

けやき会 会長 岡田 道程



は、卒業年、2025年ですから、下一桁に5が付く年の卒業生に集まっていたいただき、「同期会」の意味合いも兼ねねばと思います。詳しくは別紙の案内の通りですが、例えば今年なら1975年卒、1985年卒、1995年卒、2005年卒、2015年卒、2025年卒が該当します。ただし、留年された会員も少なくないことから、4年で卒業の年でも、留年された翌年でも構いません。（例えば、1991年入学の場合、4年で卒業の場合は、1995年卒ですから、2025年の今年。或いは、1年留年された場合は、1996年卒ですから、2026年の来年。同期が2年連続で、両方にまたがっている場合は、2025年、2026年の両方に出席しても構いません。）

なお、来年2026年は、卒業年次が下一桁に6が付く年（1976年、1986年・…）が該当者になります。2次会で「同期会」を開催される場合には、けやき会から補助金も支給する予定です（8人ごと、1万円）。

取り分け、この機会にこれまで同窓会には来ていただけなかった会員の皆さんにも、ぜひ出席していただき、先生方を囲んで、同期を囲んで、或いは同じコースの先輩後輩を囲んで、盛り上げてほしいと思います。

どうぞ、よろしく願いいたします。



皆さんの記事・情報をお待ちしています！

会報「けやき会」では、会員の皆様から広く記事を募集しています。現在、こんな仕事をしている、こんなお店を開いている、スポーツや音楽など、こんな活動が続けているなど、何でも結構です。

ご年配の卒業生だけでなく、若い卒業生も含めて、ふるってご投稿ください。名誉教授、現役教員など特別会員の方々から近況報告も大歓迎です。もし迷ったら、けやき会のメールで相談してみてください。



けやき会「寄附講義」レポート

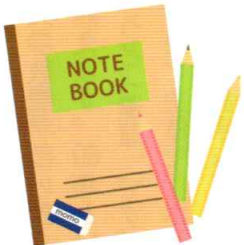
**2024年度の寄附講義
4学部108名が履修！**

2024年度の「寄附講義」は、3年目を迎えて一層充実してきました。

学生は、教養、経済、教育、理学部の4学部から108名が履修。うち教養学部が58名で、全体の54%を占めていました。学年では、全体で1年生がいちばん多く、47名。次いで2年生の32名。1、2年生あわせて79名(73%)で、いちばん大きなボリュームゾーンを形づくっています。

1、2年生のうちから、自分のキャリアを意識し、自覚することはいいいことだろうと思います。母校の卒業生を中心に、12人もの講師が次々と生々しい経験談や挫折を乗り越えた話をしてくれたことで、明らかに、学生たちの意識が変わりました。学生たちが、自分を深く見つめ直し、自分の将来についても深く考えるようになったことが、この講義の最大の特徴です。参考までに、学生たちの感想をいくつかご紹介します。

(岡田道程)



終わってみて振り返ると、私たち大学生（特に私のような一年生）にとって一番ぴたりで大切な講義だったのではないかと感じます。この講義と出会えたことに感謝です。（教養1年）



全12回にわたる講義を通して、今後の人生について本気で考えるきっかけを得ることができ、自分自身のキャリアや生き方に対する意識が大きく変わった。（経済3年）



全ての方々が、人生で学んだことを、ギュッと90分間に濃縮して最大限に伝えてくれていた。こんなに短時間で知見を収穫できるなんてものすごく贅沢なことだと思う。毎回集中して授業に臨むことができた。

(教育3年)

社会人の生の声を聞く機会はOB訪問をしない限りはなかなかないため、貴重な体験をすることが出来たと強く感じた。正直なところ、どの講師の方も違った良さや講義の面白さがあり、受講していて楽しかった。（教養3年）

週に1回、90分に満たない講義であっても、確実に学生の意識に変化をもたらしていることを実感した。（経済4年）



これほど多くの先輩方が自分たち学生のために時間を割き、プレゼンを用意してくださったことに深く感銘を受けた。社会人として多忙な日々を送る中で、学生の成長のために惜しみなく知識や経験を共有してくださる姿勢には、純粋な尊敬の念を抱いた。（経済4年）



講師の方々のお話を聴いていくなかで、自分で自分の人生を切り開くことは面白く、カッコいいことであるという事に気が付いた。（教育1年）

けやき会「寄附講義」レポート

2024年度「けやき会」寄附講義「国際社会の理解とキャリア形成」

金曜日3時限(13:00~14:30) 全学講義棟1号館206教室

1. 9月27日 ガイダンス、イントロダクション・・・担当：岡田
2. 10月4日 第1回講義 **岡田大地氏** (05埼大経済) キヤノンマーケティングジャパン株式会社
「20代のうちに考えたい人生戦略～「個」を強くして生き残る」
3. 10月11日 第2回講義 **高田智之氏** フリージャーナリスト、元共同通信記者(北京、上海特派員)
「愚鈍と挫折を肥やしに～私の仕事人生」
4. 10月18日 第3回講義 **池上愛由美氏** 株式会社マイナビ、キャリアサポーター(国家資格キャリアコンサルタント)
「自分に合ったキャリアを考える」
*講義終了後、株式会社マイナビの鳥淵さんより、インターンシップや就職のための情報収集の方法について、特別レクチャー
5. 10月25日 第4回講義 **柏原聖士氏** (09現社) *元野村證券、現在Innovation IFA Consulting 代表取締役社長
「お金について考える ～私の経験から伝えたいこと」
6. 11月1日 第1回グループディスカッション+レポート・・・担当：岡田
7. 11月8日 第5回講義 **時田心太郎氏** (09現社) 株式会社ADKマーケティング・ソリューションズクリエイティブ・ディレクター / コピーライター
「キャリアを拓く、伝え方。～営業一筋32歳、コピーライターになる～」
8. 11月15日 第6回講義 **高木真慈氏** (18ヨ・ア文化) インクグロウ株式会社(元リクルートスタッフィング)
「教養で“らしく”生きる～自ら学び自ら生きるために～」
9. 11月29日 第7回講義 **田口美一氏** (81シス) ビジネス・ブレイクスルー大学大学院講師、
カウラ株式会社執行役員(元日本銀行、元クレディ・スイス証券副会長)
「21世紀をどう生きるか?～埼大卒業生がいない社会をどう生きるか?」
10. 12月6日 第8回講義 **遠藤美幸氏** (慶應大学大学院) *イギリス近代史、ビルマ戦史研究者。神田外語大学・埼玉大学
兼任講師(歴史学)、不戦兵士を語り継ぐ会共同代表、
日本ミャンマー友好協会理事。日吉台地下壕保存の会運営委員
「日航客室乗務員からビルマ戦研究者へ～機内で出会った元兵士から託されたミッション」
11. 12月13日 第2回グループディスカッション+レポート・・・担当：岡田
12. 12月20日 第9回講義 **赤津光一氏** (70独文) 元ジェトロ・ワルシャワ所長、現在ヨーロッパ事情講演講師(特にドイツ、
ポーランド)、フォーラム・ポーランド運営委員等
「ポーランドでの仕事～知られざる親日的な国」
13. 1月10日 第10回講義 **中川和広氏** (04国関) OPMAC(オプマック)株式会社
「ODA(政府開発援助)業界で働く楽しさ・つらさ」
14. 1月24日 第11回講義 **設楽咲紀氏** (11国関) 株式会社サインウェーブ カスタマーサクセス
(元日本国際協力センター(JICE)留学生事業担当)
「留学、転職、仕事と育児～自分なりのキャリアを目指す現在地」
15. 1月31日 第12回講義 **香田寛美氏** 春日部市監査委員、元春日部市総合政策部長、江戸千家滑白流茶道教授
「11勝3敗の人生 趣味は厳しく! 仕事は楽しく!～変化する公務員」
16. 2月7日 第3回グループディスカッション+レポート・・・担当：岡田



けやき会「寄附講義」レポート

講師から

**寄附講座を通じて
学生の皆さんに
お伝えしたいこと**

(国際関係論2004年卒)

中川 和広

私は幸運にも2014年から寄附講座でお話させて頂く機会を頂き、自身のこれまでのキャリアを紹介し、学びや気づきを学生の皆さんにお伝えしてきました。本稿にて、それらの一部をご紹介します。

カリフォルニア大学

サンディエゴ校

2004年に埼玉大学を卒業後、米国のカリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)環太平洋国際関係大学院(IRPS)に留学することができ、国際関係論を学びました。IRPSは2年制の修士プログラムで、1年生約200名全員が自動的に2年生になれるのではなく、同級生の平均以上の成績を取らなければ2年生になれず退学となる条件だったことに、米国の競争社会を垣間見ました。

教室の窓からカリフォルニアの青い空・青い海が見える中、机に向かい勉強に集中するのは大変でしたが、2年生に進級できなかったら、大学院留学を応援してくれた方々に申し訳ないと思い、必死に勉強し、何とか2年生に進級し、卒業できました。卒業式に

は、以前テレビでみたローブを着ることができたのはいい思い出です。



卒業式のローブ

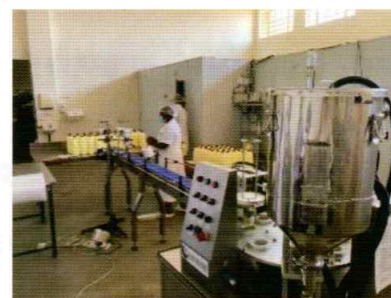
開発コンサルタント

IRPSを卒業後、商社を経て、2012年4月に開発コンサルタント会社に入社しました。開発コンサルタントとは、政府開発援助(ODA)事業を実施する国際協力機構(JICA)や、途上国政府等から委託を受けて、途上国で業務を行う仕事です。道路・橋梁の敷設や発電所・浄水場の建設などのインフラ建設事業では、エンジニア(理系)の開発コンサルタントが設計や施工管理業務で活躍しています(埼玉出身の方もいらつしゃいます)が、教養学部(文系)卒の私でも以下のような業務に専門家として業務に従事しています。

・計画策定調査業務

途上国から支援要請を受けた事業の実現可能性の調査をする中で、途上国側の財務省を始めとする関連省庁やその関連機関が、要請された事業でどのような役割を担うのか、為替リスクを始めとする事業期間中に生じるリスクをどの機関がどのように負担するのか等を、途上国の現状や課題を調査した上で、事業プランを提案するという

仕事で、バングラデシュ、エジプト、ボツワナ等で従事しました。



ボツワナでの
中小企業向け金融事業の調査

・事業実施支援

上述の調査を経て事業が実施されることになっても、初めて事業を実施する途上国の政府機関は、具体的にどのようにJICAのルールに沿って事業を進めるのかわかりません。そのため、事業実施支援専門家として、各種ルールの説明セミナーの実施や、担当者の机の横に座って実際の書類の書き方のアドバイスや、バングラデシュ、ミャンマー等で従事しました。



ミャンマーで実施したセミナー

・事後評価業務

途上国で無事に事業が終わっても、その事業が本当に有益だったか、問題はなかったかを調査・評価するための業務を事後評価業務といい、特に規模の大きい事業の場合は、その事後評価業務は開発コンサルタントのような第三者にJICAから委託されます。私も評価者として、インド、ベトナム等の事業評価を担当し、実際に現地を訪れて現場視察や関係者にインタビューを行い、それら事業の評価を行いました。



評価を実施した
ベトナムの石炭火力発電所

最後に

上記の通り、開発コンサルタントは、色々な国へ行つて、色々な人たちと一緒に仕事をする事ができ、また、途上国の場合は発展の速度が日本よりも早く、自身の仕事はその国の発展につながっていることが実感できるため、大変刺激的で楽しい仕事だと自身では思います。海外(特に途上国)での仕事に興味のある学生の皆さんは是非挑戦してみてください。

けやき会「寄附講義」レポート

受講生から

オランダから留学して

(交換留学生)

石田 萌瑛



はじめに

この度は、けやき会への寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。滋賀で生まれ、滋賀で高校卒業まで育ちました。2021年9

月よりオランダUniversity of Twenteに正規留学し、心理学を学んでいます石田萌瑛と申します。2024年9月から、オランダの大学から派遣された交換留学生として、埼玉大学に半年間留学しました。

故郷滋賀について

私の生まれ育った街は、琵琶湖に近く、田んぼに囲まれたのどかなところ。海外進学を決断するには、かけ離れた土地のように感じますが、人格の基盤を作る大事な時期に夢を応援してくれる温かい家族や友人に囲まれて育ったことが、今の私を作ってくれていると信じています。

オランダの大学について

私の在籍するTwente大学は、オランダ東部ドイツとの国境近くの街Enschedeにあります。とても大きく素敵なキャンパスを持つ大学で、元々工科大学であったことから、どの学部においてもTechnologyと絡めた学びができる大学です。

オランダの大学について キャンパスライフ

正直言うと勉強三昧の日々で、日常のほとんどは机に向かって生活しています。例えば1年間に二千ページ以上の教科書を読み込み、心理学の知識を叩き込み、統計ソフトを用いて心理統計の分析スキルを獲得し、アカデミックな文章の書き方を学ぶことで、仲間とプロジェクトペーパーを執筆するなど、大学生として必要な知識や技術が確実に身につけている実感があります。

学業の他には、心理学部に付随するアソシエーションに所属して、イベント企画しています。休日には、学業の合間に地元のマーケットに出向いて1週間分の食材を調達し、自宅

に戻ってまとめて調理するなど、自立した生活を送っています。

埼玉大学での暮らし

この半年間の埼玉大学での留学は、「日本を知る」と、日本の経営学を学ぶこと、自分に素直になること」の目標を掲げて暮らしてきました。オランダでの生活と比べ、時間的余裕がかなりあるので、せっかくなので日本長期滞在の機会を活かし、東京へ出向いたり、長期インターンにチャレンジしたり、地元へ帰省し家族や友人らとの交流の機会を作っています。

また、国際寮(Int-house)に住んでいるので、英語での会話を中心の日常生活を送っています。これらの経験から、今までは「日本と海外」と分けて考えがちだったのですが、「世界」を、「日本」をより身近に感じ、ある特定の国ではなく、「世界で生きる」という自覚を持つことができる様になったと感じます。

将来の進路・夢について

私は「テクノロジー」と心理学を掛け合わせ、一人ひとりが自身の強みを活かし、個人と社会がともに繁栄(Prosperity)する未来を実現することを目指して生きています。このために、現在はTwente大学にて心理学の学びを進めており、将来的にはオランダの大学院に進学し、更に学びを深める予定です。その後の進路についてはまだ悩んでいる最中です。本当は、この日本への留学期間中に直近5年ほどの進路を決め切る気でした。しかしながら、「日本に身を置いたことで気づく日本の良さや母国で生きる快適さ」を痛感する一方で、「私自身の価値観やオランダの魅力」を再認識するきっかけにもなり、完全に決断することは出来ませんでした。しかし将来的には、自分の生涯目標を叶えることで生まれ育った日本に少しでも貢献したいと考えています。

寄附講義について

本寄附講義を通して、日本人の人生の先輩方の多様な生き方に触れることが出来、自身の人生を見つめ直す機会になりました。また私にとって貴重な経験だったのが、埼玉大学生とのグループディスカッションの時間です。同年代の学生と、講義を通して考えたことを日本語でシェアする機会は、多様な価値観に触れる貴重な時間となり、自分自身を

客観的に見つめることにも繋がったと考えています。

大きな収穫の寄附講義

(地理文化人類学専攻 3年)

難波 晃生

はじめまして。教養学部3年の難波晃生と申します。

このたびは、寄附講義受講生としてこのような貴重な機会をいただきましたことを大変光栄に感じております。

この授業を通して、

OB・OGの先輩方が、実際の仕事やキャリア形成に関する知識や経験を学生に共有してくださり、私にとって非常に刺激的で実りの多い時間となりました。



もしこの寄附講義がなかったとしたら、私は今も就職活動に励んでいたのだろうか、と考えることがあります。

絶対に大手に、後悔がないように、と意気込み2年生の3月から就職活動を始め、夏のインターンシップには大手企業に絞って20社ほど参加したものの、燃え尽きかけていた9月でした。友人に勧められ、半信半疑で受講したこの授業があったからこそ毎週ハイレベルなビジネスパーソンに刺激をいただき、就職活動への高いモチベーションを保つことができています。

今回この記事を書くにあたり、改めて「国際社会の理解とキャリア形成」の授業を振り返ってみると、この授業でしか得られない数多くの学びがありました。ここでは特に大きな2つの収穫を挙げたいと思います。

まず1つ目に、人生を豊かにするための心構えです。授業を通して、先輩たちが語る成功談だけでなく、苦労話や失敗談も含めたりアルな経験をお聞きする中で、講師の方々に共通点があるのではないかと考えました。

それは、「桁外れのバイタリティー」と「自己実現のために貪欲である」ことです。夢や目標のためなら大きなリスクを負ってでもアクションを起こし、それを全力で掴みに行く姿勢には毎回驚かされると同時に、これが人生を

充実させることや自己実現のための鍵であると感じます。

2つ目の大きな収穫は、OB・OG訪問の重要性です。埼玉大生は控えめでなかなか行動に起こせない人が多いとよく言われますが、OB訪問こそが就職活動における強力な武器の1つとなる私は考えています。こんなにも身近に素晴らしい先輩方がいるのに、活かさないのはもったいないです。実際、私自身もこの授業をきっかけに、講義でお話しいただいた先輩の一人にコンタクトを取り、直接お話を伺う機会を設けました。東京駅のスターバックスで3時間半もの時間お話しさせていただいたあの時間は、私にとって就職活動だけでなく、ビジネスパーソンとして生きていく上でかけがえのない時間となりました。

最後に、僥倖ながら私が1年間の就職活動で学んだことを2つ共有したいと思います。

まず、就職活動を通して自己分析が最も重要だと感じました。ありきたりでよく言われることかと思いますが、私自身、自己分析は誰よりも時間をかけて注力した自負があります。過去分析や未来分析、キャリアプランやライフプラン等々何カ月もかけて取り組みました。だからこそ就職活動や志望業界、自分の強みと弱みなどに納得感があり、自信を持って就職活動を進められています。

2つ目に、人を頼るということです。「受験は団体戦」とよく言われますが、就職活動も同様に団体戦だと私は考えます。家族や友人、OB・OGなどありとあらゆる手段を活用して自分の味方を増やすことで就職活動が有利に進むと思います。その手段の一つとして寄附講義は、就職活動に刺激を与え、同時に将来を考える貴重な機会になると思います。これから就職活動を控える皆さんには、この授業をフル活用し、自分に必要だと感じたところを恐れずOB・OG訪問なども積極的に行うことで、自分の視野を広げてほしいと願っています。

「寄附講義」で得た学びは、単なる就職活動のヒントにとどまらず、人生を豊かにするための大きな財産となりました。この貴重な機会を与えてくださった先輩方に感謝しつつ、私もいつか先輩たちに何かを還元できるよう存在になりたいと思っています。

けやき会では毎年、埼玉大学大学院人文社会研究科に在籍する優秀な学生を表彰しています。2024年度は、以下の4人が第6回「けやき賞」の対象となりましたので、ご報告します。

- ・文化環境専攻 哲学歴史コース 青木雅史さん
- ・同 現代社会コース 大村瑛理香さん
- ・同 ヨーロッパ・アメリカ文化コース 増田祐翔さん

- ・国際日本アジア専攻 日本アジアコース 勝又めぐみさん

4名には、昨年11月1日、宮田学部長の立会いのもと、「けやき賞」賞状と副賞（1人5万円）がそれぞれ授与されました。

ますますの研究の成果を期待します。

けやき会学生顕彰 第六回けやき賞

『けやき賞』は特別優秀な在学生を称え、同窓会として、その研究活動を後押しすべく創設されたものです。

けやき賞授与の御礼

人文社会科学研究科博士前期課程

文化環境専攻 現代社会コース

大村瑛理香

この度けやき賞を授与して頂きました、大学院博士前期課程の大村と申します。誠に光栄に思いますとともに、感謝申し上げます。そしてけやき賞の御礼にあたりまして、この場を借りて私が取り組む研究と大学院での学びについて短いながらお話をさせて頂きます。

私は現在大学院文化環境専攻に所属し、社会学を主に学んでいます。なかでも漫画やアニメなどのコンテンツ研究、ジェンダー・セクシュアリティ研究に関心を持っています。

現在取り組んでいる研究テーマは「日本における妊娠・出産をめぐる状況とボーイズラブ漫画―男性登場人物間の生殖の分析から―」です。作り手、受け手ともに主に女性を中心となって展開されてきたBL漫画で描かれる男性登場人物間の「妊娠・出産」とはどのようなものなのか、研究を行っています。

作業としては実際に漫画の単行本を丁寧に読みながら、慣れないExcelを試行錯誤しつつ利用しテーマにそって分析、考察を行っています。

埼玉大学での学びは、大学、大学院ともに専門を超えて様々な学問分野の授業、文献にふれることができる豊かな学習環境であると思います。私自身としてはこれまで専門の社会学以外に農業や芸術学など幅広い授業を履修してきたことで、広く興味関心を育てることができたと感じています。

こうした豊かな学びと他の大学院生の方々の熱心な姿勢からの刺激が、研究に取り組む糧となっています。研究を進める中で悩むことやどうにもやる気が出ないこともあります。周囲の人々に助けていただきながら取り組むことが

できていることに感謝致します。今後の大学院生活でも引き続き研究に励んでまいります。最後になりますが、御指導・鞭撻頂く先生方、および学生生活でお世話になる職員の方々に心からの感謝を申し上げますとともに、本稿の結びとさせていただきます。



写真史について

人文社会科学研究科博士前期課程

文化環境専攻 哲学歴史コース

青木雅史

写真が発明されてからこれまでに撮られたすべての写真を総計すれば、おそらく美的な意識のもとでいわゆるプロによって撮影された写真よりも、個人による家族写真などの方がはるかに多いことだろう。私はこういった写真を持つ、例えば遺影のような写真が帯びた精神性あるいは霊性が、カメラの眼を通して表現されるものの独自性の一つであるように思う。

写真が19世紀前半に発明され大衆化したのはごく最近だったにも関わらず、仏壇等へ遺影を飾る風習となっているのは、そういった精神的

性格が影響していると言えるだろう。

基本的に写真史というものは、カメラの技術的發展あるいは著名な職業写真家らの代表的な仕事を線で結ぶようにして叙述される。私の研究も日本の戦後写真史をその領域としているが、叙述の方法はそのような英雄史観的な性格を持つことを避けられずにいる。しかし調査や執筆をする傍ら、先に述べたような、膨大に存在しているが目にすることのない家族写真などの個人的な写真のことを考えずにはいられなかった。戦後日本において土門拳や木村伊兵衛といった写真家らにより、リアリズム写真と呼ばれるスナップショットを基本とした写真がプロアマ問わず大きな流行となる。これらの写真群は、生活の実相を写しとることによってある種の時代精神を表現することを目指すリアリズムに基づいていた。そこでは写真という美的かつ社会的なメディアによる、精神的な近代化が目指されていたと私は考えている。

これら両者の写真群は一見まるで異なった、同時に相上り上げられることのないものであるかもしれない。しかし遺影が家族の歴史を写した肖像であるように、スナップショットはその何気なさによって社会の肖像たりえるものであると私は考える。

この研究で主に焦点を当てるリアリズム写真は、多くの写真史の中では芸術写真の歴史の一幕として触れられるものに過ぎなかった。しかし社会的かつ美的に同時になりうるメディアとしての写真を、このように従来と異なるものからヒントを得て読み解くことで、美的性格と社会的性格を切り分けることなく複合的に考えることができるのではないかと、というのが私の研究の算段であり目標にあたる。

インターネットを通じ無数の写真があふれるこの時代に、あらためて写真が人間に与えるものを問う基礎をここから作れたなら幸いである。

留学生の声

ナンサイアウンさん
日本文化専攻 3年

故郷のこと

ミャンマー北東部に位置するシャン州（北シャン）の「ジャウメイ」という小さな町で生まれました。ミャンマーには約135の民族が存在し、その中でも主要な民族として「カチン、カヤー、カレン、チン、ビルマ、モン、ラカイ、シャン」族の8つがあります。私はシャン族に属しており、第一言語もシャン族の言語です。

私の故郷では、ほとんどの人がそれぞれの民族の言語とミャンマー語を話すことができます。また、シャン州は中国と国境を接しているため、中華系の人々や中国語が話せる人も多いです。私の故郷はゲルマツプで検索しても出てこない小さな町ですが、自然が豊かで、住民も親切です。そのため、大都市にはない魅力がある町だと私はいつも思っています。

留学するに至った経緯

子供の時からさまざまな民族の言語に触れていたこともあり、私は言語に強い興味を持っていました。中学生の頃から中国語と英語を勉強し始め、外国人観光客と会うたびに興奮して、「Hi! Where are you from? Nice to meet you!」と大きな声で話しかけたことをよく覚えています。英語も好きでしたが、さらに新しい言語を学びたいと思い、「マンダレー外国語大学」の日本語学科に進学しました。

大学4年生だった2020年、文部科学省の日研究生というプログラムで選ばれ、埼玉大学で1年間交換留学生として勉強する機会を得ました。しかし、その時期は新型コロナウイルスが非常に流行していたため、ほとんどの授業がリモートで行われました。直接授業を受ける機会が少なかったのは残念でしたが、さまざまな国からの留学生と仲良くなり、充実した一年間を過ごすことができました。

本来であれば、日研究生のプログラムが終わると帰国して大学に戻って卒業する予定でした。しかし、2021年にクーデターが発生し、予定通りにいかず、とても落ち込んでいました。そのような状況の中で、以前埼玉大学に留学していた時に留学生アドバイザーの本先生からいただいた「大変なことあるかもしれませんが、新しいスタートを見つけてがんばってください」という言葉が大きな励みとなりました。

その後、いろいろな悩んだあげく、日本語学校の学生

として再び日本に来ることを決めました。国の情勢によりさまざまな制限がある中で日本に留学するのは決して簡単なことではありませんでしたが、絶望していた私にとって日本語学校は新しいスタートとなりました。

日本語学校で勉強しながら、再び埼玉大学に戻って勉強したいと思い、編入試験に挑戦しました。そして無事に合格することができました。たくさんさんの困難がありました。再び日本に来られたことが何よりも嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。

埼玉大学での勉強、専攻、卒論のテーマ

母国の大学では日本語を専攻として勉強していましたが、日本語についてさらに深く勉強したいと思い、埼玉大学に進学しました。現在は教養学部の日本文化専攻で勉強しています。母国の大学と埼玉大学での勉強の違いとして、母国では日本語を外国語として学び、主に話す力と書く力を重視して勉強していました。

埼玉大学では、日本語の文法や言葉の構造、特徴などを詳しく分析して考えるような勉強をしています。これまで当たり前だと思っていた日本語の文型や表現にも実は奥深い意味があることを知り、改めて言語の美しさを感じました。現在、卒業論文のテーマについては考えている途中です。日本語の文法に特に興味があるため、文法に関するテーマにしたいと考えています。

寄附講義について

履修登録するときシラバスを検索してみたところ「国際社会の理解とキャリア形成」という講義を見つけた。実際に講義を受けてみると、自分のキャリアだけでなく、人生観についてもさまざまな役立つ情報を得られる有益な講義です。

この講義では、人生経験が豊富な講師による講義が毎回行われ、キャリアや就職、人生の目標に関する貴重なお話をしてくださいました。講義を通じて、幅広い分野で働くことの可能性や、仕事をしていく上で大切なこと、そして人生の目標について深く考える機会を得ることができました。講師の方々のお話はどれも印象的で、今後の私の人生にも大いに役立つと思っています。

就職と将来の夢

埼玉大学で日本語を詳しく勉強する中で、日本語の構造が非常に面白いと感じるようになりました。同時に、自分の母国語（ミャンマー語）にはどのような構造や特徴があるのか知りたくなりました。これまで外国語に慣れてそれだけに集中して勉強してきましたが、自分の言語について深く考えたことがなく、それについて恥ずかしく思いました。

その一方で自分の言語を大切にしなければならいとも考えるようになりました。そこで、私は大学院に進学し、日本語とミャンマー語を比較して、それぞれの相違点や特徴について研究したいと思っています。特に、ミャンマー国内では日本語を学ぶ人が増加しているため、そうした学習者の役に立つ研究をしたいと考えています。

将来、私は自分の語学力と異文化背景を活かせる仕事に就きたいと考えています。日本語を学びはじめたころ、「Japan Foundation」「JASSO」「JICA」などの団体から、学習支援や留学に関する情報など、教育に関するサポートを受けました。その経験から、将来こうした国際協力関連の団体で働きたいと思うようになりました。特に、私は日本語を専攻して勉強しているの、外国籍の方々に対して日本語教育に関する支援ができる仕事に興味があります。

家族の事情もあり、日本に長く住むかどうかはまだ決まっていませんが、たとえ母国に帰ったとしても、日本に関係する仕事に携わりたいと考えています。



世界遺産に登録されている
「Bagan」という町で撮影

追悼 川田順三先生

2024年12月20日川田順三先生がご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。



けやき会懇親会で挨拶される川田先生
(2019年6月)

草分けの頃

「2年半のフランス留学から帰って、1年あまり東京大学の文化人類学教室の助手を務めた後、心身ともに生若い、なりたて助教授として埼玉大学に着任した。身なりも構わなかったのも、よく門衛に学生と間違えられた。主任教授の石田英一郎先生は、東北大学が専任だったから、実質的には、この学科設立のために助手として調査先のペルーから帰国してもらった、学部で2年後輩の、学生時代から気心の知れた友枝啓泰君と二人で、日本で2番目の文化人類学科を創設する意気に燃えていた。

北浦和の大学に初出勤の日、愛煙家でパチンコ好きの友枝君は、ペルー滞在4年間のブランクにもかかわらず、大学近くのパチンコ店にゆき、缶

入りの両切りピースを抱えて研究室に戻って来た。友枝君はアルコールはだめなのに、酒飲みの私とよく気を合わせてくれて、パイオニア精神に溢れてこの新学科に集まって来た学生たちと一緒に、自由奔放な研究室の雰囲気をつくった。私の蔵書は、狭い安アパートには入り切れなかったもので、研究室にも置いて学生も読めるようにした。コーヒーマーカーを買って、本を読んだり書き物をしたり、場合によっては寝泊まりもできる、雑然とした学生・教師のたまり場を作った。学問は、雰囲気が大事だ。そして設備は整備されていなくて、オンボロな方がいい。文化人類学科創設の頃の北浦和校舎は、この点申し分なかった。

日暮れどきに、学生・教師一緒に、材料を持ち寄って「総合鍋」というのをやった。この学科の制度上の名称は「総合文化」学科だったので、よく意味の分からない学科名へのアイロニーもこめて、あらかじめ調整されていない雑多な材料を大鍋に放り込むのだ。折々ゲストを招いた。アンデス調査の大親分、泉靖一先生、中根千枝さん、極地ルポを書いていた、私も親しかった朝日新聞記者の本多勝一さん、非常勤をお願いしていた方などが来て下さって、鍋を突っつき、ビールや茶碗酒を飲みながら、学生、教師の分けへだてなしに放談した。総合鍋の写真や寄せ書きなどは残っていないが、そんな記録の配慮なしに、集まって議論するところがよかったのだ。

助手の友枝君にも私と一緒にの演習や、原典購読を受け持ってもらったが、あと石田先生の集中講義だけでは不十分だと思った。幸い非常勤講師のポストがかなりあったので、個性的な先生に狙いをつけて、お願いした。個人的にも親しかった尾本恵市さん、坪井洋文さん、西江雅之さん、石田先生が多摩美術大学学長になられてからの山口昌男さんはじめ、超一流の研究者の方々が、申し訳ないほど安い非常勤講師の手当で北浦和まで来て下さったのは、ほんとうにありがたいことだった。

埼玉大学へ赴任した翌年8月に、日本が当番になり東京と京都で開かれた第8回国際人類学民族学会の組織委員会のセクレタリーを、私は務めさせられていた。そのため東京大学助手の頃から、東京と京都で開かれるあらゆる会合に出席して全体の進行状況を把握し、英語とフランス語が公用語であるこの会議の外国との連絡をとるという、猛烈に時間と労力をとられる任務を抱えていた。そのなかで、文化人類学については全く理解のなかった埼玉大学で、新しい学科を創設する「斬り込み隊長」の役割を仰せつかったのだから、光栄でやりがいのある仕事ではあったが、心身の無理を重ねていた。折角期待に胸をふくらませて文化人類学を志望してくれた学生諸君に、教師として十分な役割を果たせず、第1期生がどうやら卒業してくれた頃には、教師としての不適格の自覚がさらに募った。教職を離れて基本からもう一度勉強し、現地の調査も十分にやって出直さなければ、学者として生きて行く意味がないと思った。」(川田先生 著)

(『埼玉大学文化人類学ことはじめ』2010年、より)



けやき会懇親会で集まった皆さんと(中央が川田先生)
(2019年6月)



けやき会の就活支援活動

けやき会の就活支援活動は、就活支援ガイダンスや相談会・OBOG交流会などの集合型と個別相談・指導をおこなう就活ゼミの二つの体制で展開しています。

2024年度実施した相談会・ガイダンスなど

- 4月26日（金）「インターンシップ&就活支援ガイダンス」（新3年生&院1年生のための）
経済学部A棟 304教室
- 4月27日（土）「インターンシップ&就活支援ガイダンス」（新3年生&院1年生のための）
Zoom
- 5月24日（金）「インターンシップ&就活準備ガイダンス」（新2年生のための）
教養学部棟 31教室
- 5月25日（土）「インターンシップ&就活準備ガイダンス」（新2年生のための）
Zoom
- 6月14日（金）「公務員試験対策講座」 教養学部棟 31教室
講師：香田寛美（春日部市役所元政策部長）
- 11月8日（金）「ES（エントリーシート）対策講座」 全学講義棟1-201
講師：時田心太郎（ADKマーケティング・ソリューションズ勤務）
- 11月23～24日（土・日）「進路・就職相談会」学園祭当日 教養学部棟 会議室
（全学部対象。相談員は、教養、経済、理学部卒業生） 埼玉大学協力
- 1月25日（土）「進路・就職相談会」 教養学部棟 会議室
- 3月8日（土）「進路・就職相談会」 教養学部棟 31教室

けやき会・経和会共催
株式会社マイナビ協力で開催しました。

けやき会・経和会共催
で開催しました。

けやき会・経和会・
理学部同窓会共催
で開催しました。

2022年に（株）マイナビと連携して拡充した就職支援活動は、翌年、経済学部同窓会（経和会）と共催で活動を展開、さらに昨年は理学部同窓会が加わり、3学部同窓会合同で就職支援活動を実施するまで大きな広がりとなりました。またこの活動は埼玉大学も全面的にバックアップしています。

2024年は「公務員試験対策講座」「ES対策講座」を個別に実施しました。



24年度の 就活ゼミを振り返って

就活ゼミ代表

高木 眞慈

（18 欧米）

24年度の就職支援活動では、例年にも増して多くの学生に希望する進路を実現させる機会を創り出す事ができました。日頃からご支援をいただいている皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

彼らは埼玉大学生のポテンシャルの高さを示してくれました。非常に頼もしい後輩たちばかりです。

彼らの共通点は企業が募集する長期インターン（職業体験）に参加していたことでした。企業側が新卒の学生に即戦力を求める傾向は年々強くなっており、実務経験を積むことができる長期インターンに参加した学生は選考を有利に進める事ができています。

埼玉大学生は真面目で一人ひとり個性的な方々がばかりですが、自己表現が苦手な方が多く、面接では良さが上手く伝わらず埋もれてしまっています。面接が得意でなくてもインターンでの経験を話す事ができれば、表面的な印象での合否ではなくて本質的な職務遂行能力で

勝負する事ができます。実際の実務に取り組みせれば力を発揮する埼玉大学生が、就職活動の本選考を有利にできるインターンを活用しない手はありません。最近、「自分の適性を知りたい」という相談を多く受けますが、実践型のインターンに参加するとすぐにわかるでしょう。

働いているのにいくら何でも悲し過ぎます。だから私は教えますし、当人が理解したと判断できるまでコミュニケーションをやめません。

学生が「やってみたいと解らない」と感じる事を「やらなくても解る」状態にしてあげることで、就職活動に捧げる時間を短くし、学生生活を好きに過ごして欲しいというのが、私の本懐でもあります。そして好きな事でも身につけた力でどんな事でも乗り越えられる、と自信を持って社会に出て欲しいと思っています。

一緒に後輩の就活応援しませんか？

OBOG訪問の受け入れ、また進路・就職相談会などで後輩の相談相手になってくれる方（特に20～30代）、大募集しています。可能な方は、けやき会ホームページにある「就活支援OKの登録」というところからぜひ登録ください。



2024年度ホームカミングデー開催

2024年11月23日(土)「むつめ祭」と同時開催

ホームカミングデーは2022年度からむつめ祭と同時開催になり、にぎやかな学園祭も一緒に楽しめるようになりました。そしてホームカミングデーに合わせて、各学部主催のイベントが多く開催されました。

教養学部では2階オープンスペースで宮田伊知郎学部長をはじめ各教員の著書 전시し、数多くの方が手にして読み入っていました。

また、けやき会が行っていた進路・就職相談会が2024年度は大学の協力に加え、経済学部と理学部各同窓会との合同開催となり、多くの学生たちが参加、熱心な相談会が繰り広げられました。

さて埼玉大学・埼玉大学同窓会共催のホームカミングデーは13:30から開催されました。歓迎会は、坂井学長に代わり石井明彦副学長(理事・産学官連携担当)による挨拶とさまざまな大学の取組みについて説明がありました。

続いての本年度の講演会はJAXA宇宙科学研究所特任教授、本学大学院理工学研究科物質科学部門教授の田代信(たしろまこと)氏による「X線天文衛星XEISM(クリズム)の開発と国際拠点形成」、副題には「銀河を吹き渡る風をみる」と題して1時間30分の講演でした。

田代教授はJAXAとNASAとの共同プロジェクトにも参加し、X線を活用してブラックホールや銀河の観測を手掛けており、また、つくば宇宙センターへの協力や宇宙の進化における物質やエネルギーの研究を続けて宇宙の未知の分野の解析を通して宇宙研究開発に取り組んでおられます。埼玉大学宇宙物理グループもXPRISM研究の中心で活躍していることを力強く述べられていました。

講演会のあと、第一食堂に場所を移して、懇親会が開かれました。各分野で活躍した学生の表彰も行われ、埼玉大学の学生の活躍をあらためて認識できる場面となりました。

また、参加者には埼玉大学大学歌のCDが無償配布されました。

同時開催されたむつめ祭は11月23日から25日の3日間で開催され、梶裕貴のトークショーや乃紫のライブ、また学生たちの野外演奏や模擬店、フリーマーケットなど、にぎやかに開催されていました。

ホームカミングデーの参加者数は、第一部の歓迎会・講演会には151名、第二部の懇親会には128名と多くの方に参加していただきました。

2025年度は11月22日(土)にむつめ祭との同時開催で行う予定です。



講演する田代教授



懇親会



むつめ祭でのライブ風景

「同期会」in 総会日<6月28日>のお誘い

教養学部創立60周年を機に、学年別に集まっていただく企画を立てました。今年は、2025年ですから、それに合わせて下一桁に5が付く年度の卒業生が対象になります。具体的には、今年は1975年卒、1985年卒、1995年卒、2005年卒、2015年卒、2025年卒が該当者です。ただし、留年された会員も少なくないことから、その場合は4年で卒業の年でも、留年された翌年でも構いません。(例えば、1991年入学の場合、4年で卒業の場合は、1995年卒ですから、2025年の今年。或いは、1年留年された場合は、1996年卒ですから、2026年の来年。同期が2年連続で、両方にまたがっている場合は、2025年、2026年の両方に出席しても構いません。)

なお、来年2026年は、下一桁に6が付く年度の卒業生が対象になります(1976年卒、1986年卒、1996年卒、2006年卒、2016年卒、2026年卒)。つまり、10年で一巡するという計画です。目的は、せっかく同窓会に出席するなら、少しでも「同期」が多い方が、いろいろと話が盛り上がるだろうということです。また、2次会で「同期会」を開催される場合には、けやき会から補助金も支給する予定です(8人ごとに、1万円)。

もちろん、10年に一度ではなく、年度に関係なくちょくちょく参加していただけるのが理想的です。特に、この機会にこれまで同窓会には来ていただけなかった会員の皆さんにも、ぜひ出席していただき、先生方を囲んで、同期を囲んで、或いは同じコースの先輩後輩を囲んで、盛り上げてほしいと思います。



同窓生の活躍紹介

昨年のけやき会総会で開催された講演会。登壇した3人、それぞれユニークなお話でとても興味深いものでした。今回はあたらめてその3人に寄稿いただきました。

先日、同窓会での講演会に参加させていただきました。このような機会を頂けたこと、心から感謝申し上げます。限られた時間の中で、大学時代の思い出や現在の仕事についてお話しできたことは、私にとって大変貴重な体験でした。参加者の皆様との対話を通じて、共通の思い出や新たなつながりを感じることができ、非常に嬉しく思っています。

今回の講演でも共に登壇をさせて頂いたゼミ仲間の顔を見ながら、やはり大学時代の思い出としてはゼミ活動の記憶が強く蘇ってくるなと感じました。

どんな課題を解決すべきかテーマを決め、仕立てを考えて毎週のように徹夜をし、木曜午後のゼミ授業に臨むというサイクルを通じて、チームで学びを深めていくこと、自らテーマを設定し探究していくプロセスの面白さを経験しました。

高校までの勉強では問題集に向き合い答えのある問いに取り組むことが多かったため、自ら納得解を見つけないと、探究していくゼミ活動は本当に新鮮でした。（学びの時間と同じくらい：友人たちと過ごした楽しい時間も心に残っています。お酒を飲みながら語り合ったり、時

間を忘れて遊び尽くした日々、今でも大切な思い出です。）

現在、私は仕事を通じて社会課題を解決するため、その解決策の一つとしてDX推進に取り組んでいます。

直近で向き合っているテーマは「生産性向上」や「効率化」といったキーワードが多いのですが、こうしたテーマは抽象度が高く、何をすべきか、どこから着手すべきか見立てや仕立てが難しかったり、ステークホルダーが多い中で意見が割れたり、合意形成が難しかったりと、自身のスキル不足を痛感することもあります。

そしてその度に、ゼミ時代もみんなで課題設定に頭を悩ませていたな、意見が割れて議論が熱くなったこともあったな、と仕事と同じようなシーンがあったこと思い出し、やはりゼミ時代に体感したチームで協働することの心強さやそこから得られる刺激は今の仕事にも成長意欲にも繋がっているなと感じています。難しい課題に挑むことで自分自身も成長していると実感できる瞬間があり、これからの姿勢を大切にしながら、前に進んでいきたいと思っています。

最後に、今後も皆様とのつながりを大切に、共に成長していけることを心から願っています。

（2009年卒 現社）



井上真理

けやき会の活動を通じて出会った3人の埼玉大学生。彼らに心を動かされた、私の体験談です。

「相談に来たいです、今日もう一度」。就職相談会でそう言ってくれたのは、大事なサークル発表の合間に駆けつけた学生でした。彼女の志望は、ある業界のNo.1企業。学生時代の私も一次選考で落ちた、内定が難しいことで知られる会社です。30分間、彼女と真剣に向き合いました。

そして2時間後、発表を終えた彼女は終了間際の相談会に駆け込んできました。時間をやりくりしながら納得いくまでアドバイスを求める姿に、埼玉大生に抱いていた控えめなイメージが一変しました。

「あの企業、無事通過しました！次は三次面接です」。1か月後、そ



時田心太郎

んな嬉しい報告が届きました。目標に向かって時間の限り努力する彼女の姿に、私自身も勇気をもらった瞬間でした。

「授業中なのに、ちょっと泣いてしまいました。」社会人が登壇する『寄附講義』のレポートに書かれた学生の感想です。

私の講義では「キャリアを拓く、伝え方」をテーマに、30代半ばでコピーライターにキャリアチェンジし



柏原聖士

バイトに明け暮れていただけの学生でした。就職に関しても、ただただ良いご縁に恵まれ大手証券会社に入ることができただけで、何か自分の力で勝ち取ったなどという実感は一切なく、こんな自分が寄附講義や相談員として学生にどんな話をするべきだろうかと悩みました。

そこで改めて大学卒業からの自分のキャリアを振り返りました。大手企業と呼ばれる会社で正社員として10年弱働き、自分の会社を立ち上げたり、フリーランスで働いたり、現在の上場企業の子会社の社長という様々な立場で考えたときに自信を持って言えることが一つだけありました。

それは、「埼玉大学の学生はとても優秀で、企業側からすると必ず欲しい人材である」ということです。あくまでも私見ですが、都内にある私立大学の知名度やOBの繋がりに比べると埼玉大学は知名度も低く地味で目立たないものだと思ってしまう。自信を無くしている部分があるのではないかなと思っています。

しかし埼玉大学生の強みは、「真面目で目標の為にコツコツ努力が出来る」という悪く言ってしまうえば地味と呼ばれるようなところにこそあると考えています。

ます。

少なくとも私が社会人として見てきたビジネスの世界では、目標の為に真面目にコツコツ努力が出来る人材こそ必要とされるものです。少なくとも今、私は自分の会社に埼玉大学卒の人材は喉から手が出るほど欲しいと思っています。

こんな私の思いが寄附講義や相談会で少しでも学生に伝わり、自信をもって前向きに就職活動や今後の社会人としてのキャリア形成に取り組んで頂けたらと思っています。

これが私の埼玉大学へのささやかな恩返しだと考えながら、今後も関わりを持っていけたらと思っています。

(2009年卒 現社)



昨年の講演会で

た経験を話しました。ですが、学生たちの心に響いたのは成功体験ではなく、「自己否定のクセをどう乗り越えたか」という挫折の話だったようです。将来への不安。自己否定の壁。それをどう乗り越えるか。学生たちの悩みは、私たちの時代よりも切実に見えました。

それでも、授業を疎かにせず真剣に悩みと向き合う姿は清々しいものでした。講義を通じて「自信を持つ」と「決意した彼女の涙に、私自身も胸を熱くしました。」

「いつか、同じ悩みを持つ学生の希望になれたら」。エントリーシート講座の後、相談に来た男子学生が静かにそう語ってくれました。詳細は伏せますが、彼は「困難」を抱えていました。もし私が同じ立場だったら総合職への就職を諦めてしまうくらいに困難です。

しかし、彼は落ち着いていました。「自分が本当にやりたい仕事を、まわりと同じ条件で叶えたい。」そのためどうすればいいのかを現実的に考え、行動を続けていました。その姿には、淡い期待や樂觀的な夢ではなく、真剣な覚悟がありました。自分の状況を冷静に受け止めながらも、一歩ずつ夢に向かって進む意志。その強さに心を打たれ、「こんな学生がいる埼玉は素晴らしい」と改めて思いました。

こうした学生たちの姿を目の当たりにするたび、「ありがたい」と感

じます。けやき会の活動に携わることで、埼玉大学の挑戦を応援し、つながりを育む機会をいただけるのは、運営の皆さまをはじめ、この原稿を読んでもくださる皆さま一人ひとりのご支援のおかげです。本当にありがとうございます。

私は2009年に埼玉大学を卒業し、広告代理店に入社、現在はコピーライターとして広告制作やブランディングに携わっています。この仕事の本質は「隠れた魅力に光を当て、価値を感じるファンを増やすこと」だと思います。埼玉大学もまた、魅力の宝庫。仕事を通じて得たスキルを活かし、「就職にも強い教養学部」の実現に少しでも貢献していきたいと考えています。

2025年もけやき会の新米理事として、そしてOBの一人として、引き続き関わる機会をいただければ幸いです。ここまで読んでいただき、ありがとうございました。

(2009年卒 現社)





現代の名工～ 三代目 昌国代表に聞く

◆川澄寛国さん

川澄さんは、昭和25年（1950年）生まれ、川口市にある（株）昌国代表。

刃物製造業（盆栽手入れ道具・各流生花用鋏・園芸用刃物）。平成24年度の「卓越した技能者」、通称「現代の名工」（厚生労働省）として表彰を受ける。「MASAKUNI」は現在、国内はもとより海外においても盆栽用具の代名詞とされる。

さらに、鋏の技術を応用し、最新の医療用具などにも取り組んでいる。2017年、黄綬褒章を受章。埼玉大学教養学部を昭和49年（1974年）卒業。第6回生（現社）。

◆刃物製造の家に生まれて

「初代の昌国が水戸の出身で、最初は苗木の生産をやっていたのですが、苗木を剪定するための鋏や刃物も造る鍛冶屋でもありました。関東大震災で川口に移り、熱心に研究を行い、盆栽手入れ用具の開発に務めました。父は大正12年10月1日に生まれておりますので、関東大震災の時には祖母のお腹の中でした。父も二代目昌国として、刃物製造を行い、会社を大きく発展させました。

私は、そんな刃物工場で遊んでいましたので、いずれは長男として家業を継ぐのだろうと漠然と思っていたのですが、高校（浦高）に入り進学について悩んだ時期がありました。しかし、刃物というのは（石器など）人類の長い歴史とともにあったものであり、刃物製造をやっている人が少ないこともあって、これは案外面白いのではないかと考えました。これも家業の宿命であり、それ自体幸運なことではないかというように考えて、この世界に入りました。」



川澄寛国さん

◆川口と盆栽

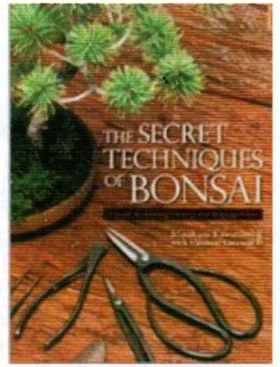
盆栽というときいたま市であり、取り分け「大宮盆栽美術館」が有名です。しかし、盆栽のルーツは古く、特に関東では川口の安行（あんぎょう）が中心でした。安行地域は、愛知県稲沢、大阪府細河・兵庫県山本、福岡県久留米・田主丸と並んで、日本四大植木生産地の一つに数えられています。江戸では、庶民から大名まで園芸が好まれるようになり、特に明暦の大火（1657年）以降、焼け跡の緑化だけでなく、幕府による江戸の復興都市計画や武家屋敷の庭園造成のため、大量の植木が必要とされたといえます。

これらの需要に応えるため、江戸の染井や駒込あたりに多くの植木職人が住み、安行はその後方供給の役割を担っていた。今でも、安行には、植木の開祖と呼ばれる吉田権之丞の碑が立っています。



◆盆栽道具

「盆栽は世界中で愛好されています。古くはアメリカ、最近はフランス、イタリア、スペインと世界中に広まっています。そんな中で、昌国の道具は100人中99人が知っていると言っても過言ではありません。盆栽は鉢で生きている限りは1000年も生きます。それを生かすためにも切れ味の良い道具が必要になってきます。切れ味が良いと痛くありませんし、切った傷がすぐにふさがります。私は、平成10年に樹木医になりましたが、父が道具について、私が樹木医としてアドバイスを行う形で英文の『盆栽・秘密のテクニック』（2005）という本を出しました。日本では風雪に耐えた山の樹木を取ってきて盆栽に仕立てることができなくなりましたが、スペインなどではまだまだそれが可能です。良い盆栽を造り残していきたいと思います。そのための道具を私はこれからも造っていきたいと考えています。」



◆樹木医として学んだこと

「20数年前、樹木医の資格を取ったのは、単純に盆栽は木ですから、木のことをもっと専門的に勉強したいと考えたのが、動機でした。しかし、樹木医になっていちばん驚いたのは、盆栽はすごいなあと気づいたことです。小さな鉢の中で100年、200年、中には千年も生き続ける、なおかつ健康で問題なく育てられるというのは、すごいことではないかと思いました。盆栽屋さんは、樹木医が登場する何百年も前から、そのような技術をもっていたんだと思い、改めて盆栽を見直すきっかけになりました。」

◆心掛けていること

「盆栽用の刃物が本業ですが、それ以外に個別に頼まれて要望に応じることはあります。例えば、外科手術用の特殊なメスやハサミ、或いは紙幣印刷用の彫刻刀など。しかし、そこで磨いた技術は本業の盆栽用の刃物にも、役に立つことがあります。日頃から心掛けていること、製作する上でのこだわりは、特にありません。常に良いものを作ろうという熱意や情熱はありますが、だからといって伝統を重んじなければならないというこだわりは余りない。良いことは取り入れて行くし、良くないことは変えて行く柔軟な姿勢です。」

◆製品と日本初の刃物博物館

（株）昌国の盆栽専用鋏は、川澄寛国さんの祖父が昭和初期、日本で初めて開発したものだといいます。以来、100年近い研究開発の歴史があります。

冊子によれば、昭和天皇皇后両陛下、秩父宮妃殿下がお買い上げになったほか、英国のエリザベス女王、スペイン国王、タイ国王、或いはニクソン大統領夫人も愛用されていたらしい。販売されている製品は、盆栽用剪定ばさみ、芽つみばさみ、葉刈りばさみ、又枝切り、根切り、コブ切り、針金切、やっこ、回転台、ピンセット、植替用具、幹割り、神作り、彫刻刀、接木刀、彫刻用ノミ、如雨露、矯正用具、剪定のこぎりなど、盆栽に必要な道具一式を扱っている。

なお、本社の2階には、2代目昌国が集めた我が国初の刃物博物館が開設されていて、見どころが多い。



展示されている刃物

（＊以上、2023年1月4日、昌国本社でのインタビューのほか、NHKラジオ深夜便、浦和高校同窓会主催の特別講演なども参考にした。また、（株）昌国の「盆栽手入道具一覧」、「BONSAI～川口の盆栽と安行の四百年」も参照した。文責・岡田道程）

教養学部 60周年にちなんで

教養学部60周年にちなみ、
同窓会「けやき会」を支えて
くれた先輩からのご挨拶です。

2025年同窓会への挨拶

けやき会顧問

酒井 憲太郎



1991年版埼玉大学同窓会名簿（1992年2月16日発行）の3ページに同窓会会長あいさつを寄せた。

この挨拶を書いたのは1991年12月だった。ホテルの一室で書いたこと覚えている。どこかのホテルかと、思い出してみると、高知のホテルだ。そうだと、高知県に行っていたのだ。なにをするために、なぜ高知県に行ったのか。高知県の知事選挙を取

材するためだった。

1991年6月に私は朝日新聞東京本社編集局写真部から大阪本社編集局写真部へ異動していた。朝日新聞は東京、名古屋、大阪、九州と4本社あり、4編集局が新聞紙面を作成していた。本社間の異動はしばしば行われる。大阪へ異動して、数日で、雲仙・普賢岳の大規模火砕流があり、長崎に出張となった。7月20日には、休みを取って、大宮ソニックスティのパレスホテルで、埼玉大学教養学部同窓会設立総会、設立記念パーティーに参加した。

10月自民党総裁が海部氏から宮沢喜一氏に交代した。本籍地の広島県でお祝いの提灯デモが行われたので、出張取材した。宮沢政権成立後の重要選挙として、12月1日高知県知事選挙の写真取材を担当した。

候補者の一人が橋本大二郎氏だった。昭和22年1月生まれで、同年学だ。1970年3月に慶應大学経済学部を卒業しているから学園紛争の経験も同じだ。橋本氏は高知県とは縁もゆかりもない「輸入候補」と呼ばれた。他に二人候補者がいた。一人は自民党公認の副知事。もう一人は革新系無所属の医師だった。

元ニュースキャスターで橋本龍太郎元蔵相の弟という拔群の知名度を生かして女性、商店主らを始めとして各層に浸透して、

ブームを起こす一方「県政に新風を」と訴えた。自民党代議士の一方を支えるグループが橋本氏支持に回り、危機感を抱く保守層にも支持を広げ、地滑りの勝利を収め、戦後生まれ最年少の知事になった。

12月1日午後8時過ぎ高知市のほりまや橋に近い橋本氏の事務所では、「バンザイ」の声が何度かはじけた。主婦のグループや住民運動家、若手経済人、保守の反主流派から社会党まで寄合所帯の応援団だった。

2日朝日新聞社会面掲載の写真説明は「橋本氏当選の知らせに鳴子を手に喜ぶ支持者」1日、午後8時5分。高知市で」だった。

続いて、橋本氏本人が登場した。1面写真説明では「高知知事選に当選し支持者たちの握手攻めにあう橋本大二郎氏」1日午後8時20分、高知市南はりまや町1丁目」だった。

この写真は朝日新聞報道写真集1992にも掲載。122ページで、大二郎庄勝／酒井憲太郎・大阪／12月2日付 高知県知事選挙は1日投票、即日開票の結果、地縁・血縁がない「輸入候補」ながら元NHKニュースキャスターで橋本龍太郎元蔵相の弟という知名度と新風を求める住民パワで、橋本大二郎氏（44）が自民公認候補に約20万票の差をつけ初当選。初の戦後生ま

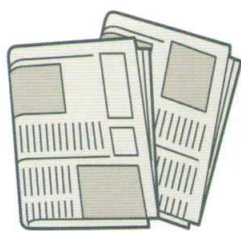
れ知事に。

更に、週刊20世紀 1991年 28ページに壇上で支援者とバンザイをしている写真を掲載。12月1日、高知県の知事選で橋本大二郎さん（44、前列右から二人目）が初当選した。住民パワーが戦後生まれのフレッシュ知事を実現させた。

この選挙取材の時に挨拶を書いたのでした。そこで、住民パワーと同じ力を同窓会に感じた。同窓会のつながりを、「血縁、地縁といった縁と同じように、埼玉大学教養学部での「学び」を共にした縁、「学縁」で結ばれた人々なのです」と述べた。

1991年7月の同窓会設立後も、日本の経済は回復していないが、埼玉大学教養学部同窓会は大きく成長を続けている。鬼籍に入る仲間もいるが、新しい仲間も確実に増えていることは喜ばしい。

（1970年卒 日文）



※酒井氏はけやき会の初代会長です。

（編集部注）

関根増男氏 ご逝去

けやき会を牽引、支えてくださった関根増男氏が2024年8月23日ご逝去されました。



関根氏は、1991年のけやき会立ち上げの時から30年以上にわたり、会のために尽力、会長の片腕として庶務から会計、名簿の発刊から会報の編集まで一手にお引き受けいただき、全面的に支えてくださいました。

これまでのご苦勞に感謝申し上げます、ご冥福お祈りいたします。



右の写真は2019年のけやき会懇親会での1枚。文化人類学コースの1期生として、川田順三先生と懇談されています。

川田先生については10頁をご参照ください。

2024年度 けやき会 総会 報告

「2024年度けやき会総会」は、2024年6月29日(土) 埼玉大学教養学部棟31番教室にて、開催いたしました。

【2024年度(令和6年度)提案の活動計画】～昨年度提案、承認されたものです。

1. 総会の開催(6月29日)。記念講演会は3人の卒業生による連続公演会「埼玉大学と私」。
2. 教養学部教育研究支援金(10万円)
3. けやき会による学生顕彰「けやき賞」(第6回、対象者の大学院生は4名、計20万円)
4. 教養学部とけやき会共催による寄附講義(9月～2月)「国際社会の理解とキャリア形成」12名の講師
5. 埼玉大生のための「就活ゼミ」卒業生による在学生のための就職支援活動(代表・高木)
6. けやき会・経和会共催、(株)マイナビ協力、3年生のための「インターンシップ&就職支援ガイダンス」。
- 4月26日(対面)27日(WEB)
7. 2年生のための「インターンシップ&就職準備ガイダンス」5月24日、25日
8. けやき会・経和会共催「公務員試験対策講座」6月14日
9. けやき会・経和会共催「ES(エントリーシート)対策講座」11月8日
10. けやき会・経和会共催「進路・就職相談会」11月23日、24日
11. けやき会・経和会共催「進路・就職相談会」25年1月～3月
12. 「さきたま塾」オンライン講座(年6回開催、代表・田口、事務局・石澤)
13. けやき会「ホームページ」を通じて様々な情報発信
14. 会報「けやき会」の執筆と発行(4月、20ページ)
15. 新入生用「けやき会パンフレット」発行(3月末)
16. 新入生会員による生涯会費納入のご案内(埼玉大学同窓会との協力、3月)
- *生涯会費:30,000円(5学部の同窓会共通)
17. 同期会、専攻別・地域別同窓会への支援
18. 常任理事会:年5回開催、合同理事会:年1回開催(対面・オンライン併用))
19. 名簿管理、会員のデータ管理



【その他、埼玉大学同窓会(全学部)の活動として】

1. 新入生会員による生涯会費納入・・・2024年度、学部生84名+大学院2名
2. 埼玉大学ホームカミングデー(11月23日)
3. 2023年度埼玉大学同窓会代議員総会(7月予定、工学部棟会議室)
- *内訳は、副会長、理事各1名、代議員4名、HC実行委員1名、監事1名
4. 埼玉大学同窓会理事会(7月予定)
5. 埼玉大学・同窓会懇談新年会
- (1月開催、学長・理事・副学長+各同窓会長)

【2024年度(令和6年度)けやき会役員】

～昨年度提案、承認されたものです。

- 会長 岡田道程(76哲思)
- 副会長 吉野 晃(80文人) 堀江 誠(81哲思)
- 萬年拓郎(85国関)
- 常任理事 飯沼麻儀(85現社) 中嶋広国(91シス)
- 稲葉雅美(92哲思) 平野友紀(94現社)
- 石原 裕(95国関) 中川和広(04国関)
- 石澤和也(10国関) 設楽咲紀(11国関)
- 羽賀美樹(13国関) 金子将也(14哲史)
- 穴戸由加里(18国関) 高木真慈(18ヨア文化)
- 理事 山野清二郎(65国文) 林野 宏(65地理)
- 赤津光一(70独文) 足立 創(76歴史)
- 田口美一(81シス) 中山文宣(94文人96文科研)
- 若林祐貴子(13国関) 田村(武田)可奈子(18日文)
- 山坂 和(19現社) 小野雄希(20芸術)
- 時田心太郎(09現社) 柏原聖士(09現社)
- 顧問 関根増男(69文人) 酒井憲太郎(70日文)
- 棚木 誠(70中文) 石田義明(75国関)
- 監事 飯塚 好(73文人) 堀光美知子(86シス)

【2024年度(令和6年度)けやき会予算】

第4号議案 2024年度 埼玉大学けやき会予算				
(予算会計期間 2024年4月1日～2025年3月31日)				
収入の部				
項 目	科 目	2024年度予算	2023年度予算	比較増減
繰越金	前年度からの繰越金	648,757	1,415,983	△ 767,226
	入金費(入学時手続者分)*	2,200,000	2,300,000	△ 100,000
会費収入	入会費(在学生・卒業生分)	800,000	800,000	200,000
	個人寄付金	100,000	0	100,000
寄付金	グループ寄付金	0	0	0
	利子	0	0	0
雑収入	その他雑収入	0	0	0
	計	3,748,757	4,315,983	△ 567,226
*入学手続時の生涯会費30,000円(全学共通)				
支出の部				
項 目	科 目	2024年度予算	2023年度予算	比較増減
総会費	総会費	200,000	400,000	△ 200,000
	会報(制作・配送)費	1,200,000	1,150,000	50,000
	名簿(管理・配送)費	120,000	100,000	20,000
	寄附講義費	250,000	200,000	50,000
	進路・就職相談会	200,000	0	200,000
	就活ゼミ&さきたま塾	250,000	300,000	△ 50,000
	学部教育研究支援金	100,000	100,000	0
事業費	学生表彰(けやき賞)	200,000	200,000	0
	ミニ同窓会援助	50,000	50,000	0
	埼玉大学同窓会費	350,000	350,000	0
	ホームカミングデー	150,000	150,000	0
	HP用サーバー使用・保守・管理料	104,500	104,500	0
	トランクルーム賃料	86,000	86,000	0
	印刷費・消耗品	40,000	50,000	△ 10,000
管理費	郵送料・送金手数料	20,000	0	20,000
	旅費・交通費	90,000	0	90,000
	会議費	50,000	80,000	△ 30,000
	基金積立(追加分)	0	450,000	△ 450,000
	予備費	308,257	565,483	△ 257,226
計		3,748,757	4,315,983	△ 567,226
2024年6月28日		会計担当 萬年拓郎		

2025年度総会 6月28日(土)開催!

午後1時～「琴」演奏会・講演会・総会 <LIVE配信も>

会場: 埼玉大学 教養学部棟31番教室(3階)

今年度のけやき会総会は、昨年に続き教養学部棟3階の31番教室で開催します。視聴覚設備も整った、学部棟で一番大きい教室です。

恒例の講演会は名誉教授の永田雅啓先生、そして昨年の会報で紹介した世界で活躍する琴の先生の中川さんの演奏会と盛りだくさんの内容です。多くの皆さんの笑顔と会えますこと、楽しみにしています。

【当日の予定】

- 11:00 理事会
- 12:30 開場・受付
- 13:00 琴演奏会
- 14:00 講演会
- 15:40 けやき会総会
- 16:30 懇親会

13時～

「琴」演奏会

中川明子(雅玲)氏

(89年イギリスコース卒)

南浦和で、箏(琴)・三味線教室の傍ら、世界での演奏活動を行っている中川雅玲氏の演奏会を開催します。日本が誇るこの素晴らしい音色に触れてみませんか。



中川雅玲ホームページ



14時～

永田雅啓先生講演会

「転換点に立つ世界

—国際経済学から見た

トランプ政策:

19世紀に逆戻り?—

(仮題)

アメリカ経済を長く研究・分析してきた永田先生ならではの視点で、揺れ動き、転換点に立つ世界経済に鋭く切り込みます。まさに時宜を得た講演会、ぜひご来場ください!

(埼玉大学 名誉教授)

永田先生を囲む会

当日総会後の懇親会の中で「永田先生を囲む会」も開催します。ゼミや研究活動でお世話になった皆さん、ぜひ集まって楽しい話で盛り上がりましょう!



懇親会も開催します。16:30～(第2生協食堂)

総会の後は懇親会。今回は特に1975年卒、1985年卒、1995年卒、2005年卒、2015年卒、2025年卒の皆さんの同期会も兼ねて開催! もちろんそれ以外でもOKです。

そして、永田先生を囲む会と一緒に! 楽しい昔話で盛り上がりましょう! ぜひお集まりください。

(懇親会は参加費4千円です)



二次会は北浦和で↑

最新情報は「けやき会」ホームページで!

同窓会の最新情報は、ホームページでお知らせしています。上記の総会・講演会の最新情報もホームページでご確認ください。参加の申し込みも受付しています。また、同窓生の皆さんの住所変更、在学生の就活のお手伝いOKの方の登録もこのホームページにて受け付けています。(「埼玉大学 けやき会」で検索してください。)

スマホなら
こちら ↓

